



土浜(つちはま)※方言名：チチハマ

名瀬方面から奄美空港へ向かう途中、海岸線沿いにある土浜集落。土浜は、隣の平集落から独立した集落です。太古から人が住んでおり、昔は父浜といったという話が残っています。



1 土浜ムウリ

集落の東側はずれの海に面した所に鬱蒼とした森がある。ハマオレ行事の時、男は浜に降りるが、女性達はこの土浜ムウリから浜を見下ろして遊ぶ。男子禁制の森であった。この森は名勝地として島唄に「ソテツヌキョラサヤクミカネク、ウリヨリキョラサヤツチハムリクワア」と唄われるほど有名であった。



3 イヤイヤ洞窟遺跡

この森は石灰岩洞窟になっており天井部が崩壊している。洞窟は近世には風葬墓としても利用されていて、「イヤイヤ洞窟」の人骨はグシュガミ(あの世の人)と呼ばれ畏れられる場所である。昭和38(1963)年に永井昌文氏、三島至氏が調査を行い、遺跡からは縄文・弥生時代相当期の「爪形紋土器」や貝輪などが出土した。



5 タミキトウシムイ

龍郷町の浦の干潟を開拓した江戸時代の島役人・田畑 佐文仁は、土浜のフーダミキとコオダミキにトンネルを通して水田開発を計画していたとの言い伝えがあり、タミキトウシムイはそのために掘られたトンネル。古老は「子供の頃は遊びに行ったが、あんまり近づきたくはないところ。ハブもいる。」と話す。現在は草に覆われ行くことが困難である。



7 土浜海岸(チチハマ)

東の節田立神と南西のテリヤ立神のあるチチハマ海岸は発達したリーフに恵まれ、魚介類も豊富でウミガメの産卵地や微小貝のある海浜としても知られる。

また、昔は33回忌の墓改葬時には骨・墓(木製のヤギョウ)とともに海へ流し、祈りの海でもある。シマにチチハマ立神という名称はなくても、両立神と明神崎を畏れ敬っている。



2 イジュンゴ

土浜集落から北へ向かうと平集落に行く農道がある。その分岐点で西側が一段下がった窪地がイジュンゴになっている。シマの人たちは生活用水としてここを良く利用していた。台風が近づくと水が濁りシマンチュに台風を知らせるとも言われ、大切に敬う聖地にもなっており、今もコンコンと湧き出ている。



4 イヤイヤ遺跡(土浜ヤーヤ遺跡)

集落北側は緩やかな台地になっており、洞窟遺跡やタミキトウシムイに通じる。

遺跡は奄美空港線事業に伴い昭和62(1987)年に発掘調査が行われ、旧石器時代・縄文時代の遺物が発見された。A T火山灰・アカホヤ火山灰が検出され、九州島と同様の鍵層が得られ、放射性炭素測定で約2万年前とされている。



6 テリヤ立神(平立神)

シマの南西側海岸のリーフには少し目立つ岩があり、これをテリヤ立神と呼んでいる。テリヤと土浜は昔から交流があり、海に面しないテリヤのシマの人はチチハマ(土浜)海岸にきて漁をしている。浜に来るときはテリヤの人たちはこのタチガン(立神)に手を合やすことからテリヤ立神と呼んでいる。これはテリヤ(平)のシマ遺産とも言える。



8 海の古道(スガリイスイなど)

「昔、道がなかったときは海岸を歩いてユワン(用安)やホーゲ(赤尾木)に行っていた。」と古老は話す。女性たちもテルを担いで同様に往来した。

干潮の時はリーフを歩くが、満潮の時は石の割れ目にしがみつきながら歩く難所が、明神崎手前のイシャキやスガリイスイと呼ばれる大きな岩である。